

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

| | | | | | | | |
|--------------|--|------------|----|------|--|--|--|
| ① 研究課題名 | 肝癌患者における二次治療以降の薬物療法の有効性及び安全性の検討 | | | | | | |
| ② 実施予定期間 | 2020年9月10日～2024年3月31日。 (なお、当院では倫理審査委員会承認後に実施します) | | | | | | |
| ③ 対象患者 | 下記対象期間に肝細胞癌に対して二種類以上の薬物療法を受けられた患者さん | | | | | | |
| ④ 対象期間 | 2017年6月1日～2020年6月30日 なお、追跡期間として、2020年10月31日までの情報を収集します。 | | | | | | |
| ⑤ 研究機関の名称 | 別添参照 | | | | | | |
| ⑥ 対象診療科 | 第一内科 | | | | | | |
| ⑦ 研究責任者 | 氏名 | 佐伯 一成 | 所属 | 第一内科 | | | |
| ⑧ 使用する情報等 | これまでの診療で当院に保管されている患者背景、血液検査所見、画像検査所見、有害事象、治療内容、治療効果、患者予後、前治療関連項目、後治療関連項目 | | | | | | |
| ⑨ 研究の概要 | 肝細胞癌には多数の薬剤が使用可能となっており、逐次療法が行われるようになっています。しかしながら逐次治療の有用性が示されているのは限られており、二次治療以降の薬物療法の成績は多くありません。そこで、肝細胞癌に対して二種類以上の薬物療法を受けられた患者さんで、薬物療法の効果や副作用を調べます。多施設共同研究であり、参加施設（金沢大学、千葉大学、広島大学、福井大学、山口大学、神奈川県立がんセンター、国立がん研究センター東病院、久留米大学）からデータを金沢大学に集積して解析します。 | | | | | | |
| ⑩ 倫理審査 | 倫理審査委員会承認日 | 2020年12月1日 | | | | | |
| ⑪ 研究計画書等の閲覧等 | 研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。 詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。 | | | | | | |
| ⑫ 結果の公表 | 学会および論文等で発表します | | | | | | |
| ⑬ 個人情報の保護 | 結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。 | | | | | | |
| ⑭ 知的財産権 | 研究グループに帰属します。 | | | | | | |
| ⑮ 研究の資金源 | なし | | | | | | |
| ⑯ 利益相反 | 利益相反はありません。 | | | | | | |

研究組織

研究代表者：

金沢大学 先進予防医学研究センター 准教授 山下 竜也

研究参加施設と研究責任者

| 研究参加施設 | 所属部局 | 職名 | 研究責任者名 |
|---------------|---------------|------|--------|
| 金沢大学 | 先進予防医学研究センター | 准教授 | 山下 竜也 |
| 千葉大学大学院 | 消化器内科学 | 特任講師 | 小笠原 定久 |
| 広島大学病院 | 消化器・代謝内科 | 講師 | 相方 浩 |
| 福井大学医学部 | 第二内科 | 教授 | 中本 安成 |
| 山口大学医学部附属病院 | 消化器内科 | 助教 | 佐伯 一成 |
| 神奈川県立がんセンター | 消化器内科 | 部長 | 森本 学 |
| 国立がん研究センター東病院 | 肝胆膵内科 | 科長 | 池田 公史 |
| 久留米大学医学部 | 内科学講座 消化器内科部門 | 助教 | 中野 聖士 |